

タカラバイオ株式会社 2025年3月期 第1四半期決算(補足資料)

1. 2025年3月期 第1四半期業績について **【決算短信9ページ】**

(売上高)

- ・ 「試薬」は、66億600万円となり、前期比▲2億300万円(▲3.0%)の減収となりました。前年同期に約5億円の売上があった新型コロナウイルス検査関連試薬が減少しました。一般研究用試薬は、円安の影響もあり、前期比で増収となりました。
- ・ 「機器」は、2億2,100万円となり、前期比0.3%の増収となりました。PCR関連装置、細胞解析装置ともにわずかに増加しました。
- ・ 「受託」は、10億1,800万円となり、前期比▲3億4,800万円(▲25.5%)の減収となりました。再生医療等製品関連受託のうち細胞加工は大ロククライアントのプロジェクト数の減少および細胞加工受託に紐づく品質試験が減少し減収でしたが、遺伝子解析/検査関連受託は増収となりました。
- ・ 「遺伝子医療」は、6億4,700万円となり、前期比▲1億3,100万円(▲16.9%)の減収となりました。レトロネクチンの売上が減少しました。
- ・ 以上により、売上高は、84億9,300万円となり、前期比▲6億8,200万円(▲7.4%)の減収となりました。

(売上総利益)

- ・ 売上総利益は、相対的に利益率が高い新型コロナウイルス検査関連試薬の減少や、売上構成の変化等による売上原価の増加により43億5,300万円となり、前期比▲21億3,900万円(▲32.9%)の減益となりました。

(営業利益)

- ・ 販管費及び一般管理費は、円安の影響もあり、人件費を含む「管理費・その他」が増加しましたが、研究開発費は選択と集中により抑制に努めました。以上の結果、当第1四半期はほぼ計画通り▲16億3,400万円の営業損失となり、前期比▲20億5,700万円の減益となりました。

2. 上期・通期の業績の見通しと、期末配当予想について **【決算短信 表紙】**

- ・ 当第1四半期は営業損失を計上しましたが、2024年5月10日に公表した連結業績予想に対して、ほぼ計画通りの進捗となっています。現時点において、上期および通期の業績の見通しにつきましても、概ね当該連結業績予想通りと見込んでいるため、業績予想を据え置いています。
- ・ 期末配当につきましても、期初に公表した1株あたり17円の配当予想を据え置いています。

### 3. 試薬事業の状況について

- ・ 当社の研究用試薬の売上高は、海外の構成比が高く(2024年3月期実績で海外比率約77%)、世界各国の経済状況等の影響を受けます。当第1四半期は円安の追い風もありましたが、欧米での金利の高止まりやインフレの影響、中国の経済不況、また地政学的リスクの影響等から、世界的には依然として、ライフサイエンス研究市場の回復は遅れています。
- ・ 当社は各国の拠点において、グローバル戦略(グローバルで多極的なマーケティング/製造/営業戦略)を進めています。日本においては民間検査センター等へのアプリケーション検査キット、米国においてはRHT(生殖医療技術)分野などのLDT(ラボ開発検査)向けのOEM/カスタム製品、欧州においては遺伝子工学関連のOEM/カスタム製品に注力しています。中国においては中国市場向け新製品の開発や価格対応などを進めています。

(参考) 第1四半期 試薬 地域別売上高

(百万円)	25/03期 第1四半期	前期比		
		増減	うち為替	増減率 (為替影響除く)
米国	3,067	+218	+334	▲4.1%
日本	1,189	▲686	0	▲36.6%
中国	1,085	+249	+67	+21.7%
欧州	768	▲7	+92	▲12.9%
韓国	291	+3	+20	▲5.9%
印度	205	+19	+20	▲0.7%
合計	6,606	▲203	+536	▲10.9%

※ 2024年3月期まで「試薬」に含めていた mRNA 製造用関連製品(研究用)等の売上高を、2025年3月期より「遺伝子医療」に加えています。本表は、当該変更を反映して組み替えています。

以上